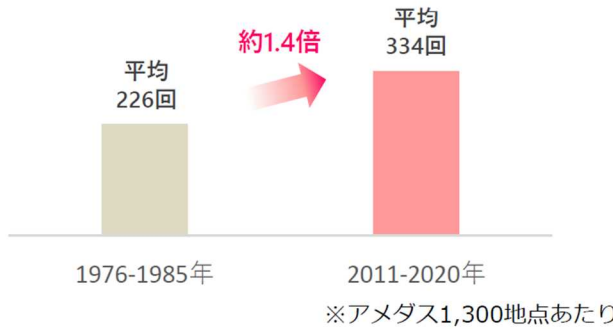


近年の水災害（雨の降り方が変化、危険性が高まっています）

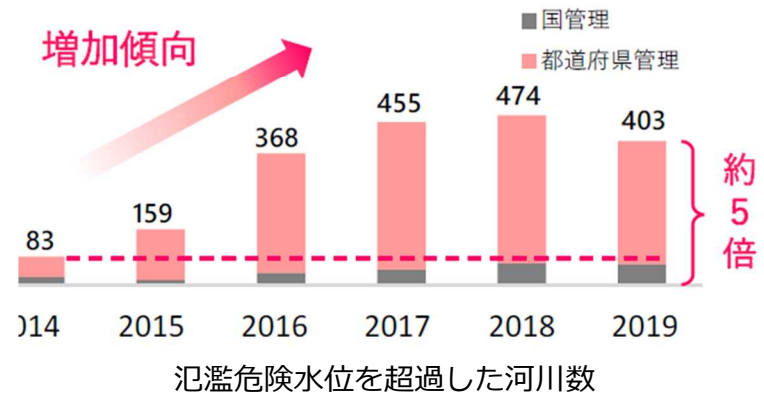
- 短時間強雨の発生頻度が直近30～40年間で約1.4倍に拡大。

※国土交通省HP「総力戦で挑む防災・減災プロジェクト」パンフレット 第2弾より

※令和元年東日本台風では、103もの地点で24時間降水量が観測史上1位の値を更新



短時間強雨（1時間降雨量50mm以上）の年間発生回数



毎年のように全国各地で自然災害が頻発し、甚大な被害が発生

【令和元年東日本台風】



千曲川における浸水被害
(長野県長野市)

【令和2年7月豪雨】



球磨川における浸水被害
(熊本県人吉市)

【令和3年7月の大雨】



土砂災害の状況
(静岡県熱海市)

※国土交通省HP「総力戦で挑む防災・減災プロジェクト」パンフレット 第2弾より

気候変動の影響で降雨量は増加する可能性

「世界の平均気温上昇を産業革命以前と比べて2℃未満に抑える」というシナリオを対策の目標として設定

今世紀末には、洪水発生頻度が約2倍に増加する見込み

今世紀末時点での降雨量の変化倍率（2℃上昇）

全国(北海道を除く)	1.1
北海道	1.15

出典：「気候変動を踏まえた治水計画のあり方」
提言 改訂版（令和3年4月）

※国土交通省HP「総力戦で挑む防災・減災プロジェクト」パンフレット 第2弾より 編集



※国土交通省HP「水辺の情報案内カワナビ」流域治水の推進 より

毎年、ひどい大雨が降り、大変な水災害が発生しています。それは、これからもっと激しくなる可能性もあります。では一体、**これからの水災害対策**はどうしていったらいいのでしょうか！？

答えは、**まち全体で、河川の流域全体で、みんなで水災害対策に取り組む**ことにあります。

流域のあらゆる関係者（行政・事業者・地域住民）が協働して水災害対策を行う：「流域治水」

「流域治水」とは、堤防整備、ダム建設・再生などの対策をより一層加速するとともに、さらに集水域（雨水が河川に流入するエリア）から氾濫域（河川等の氾濫により浸水が想定されるエリア）にわたる流域に関わる全員で水災害対策を行う考え方です。

※国土交通省HP「みんなで始める防災・減災」パンフレット(住民の皆様向け)より編集

① 氾濫をできるだけ防ぐ

集水域

ためる、しみこませる チェック

雨水浸透ますの整備
ため池等の治水利用 等

河川区域

ためる
治水ダムの建設・再生
遊水地等の整備・利水ダムの活用 等

安全に流す
河床掘削等の整備

氾濫水を減らす
堤防の強化 等



チェック : 皆さん一人ひとりのご協力・行動が必要なポイントです。

② 被害対象を減少させる

氾濫域

よりリスクの低いエリアへ誘導 チェック

移転促進等

被害範囲を限定する
二線堤防の整備等

③ 被害軽減・早期復旧・復興

氾濫域

土地のリスク情報の充実
水災害リスク情報の空白地帯解消等

避難体制を強化する
河川水位等の長期予測の技術開発

経済被害の最小化
工場や建築物の浸水対策等 チェック

住まい方の工夫 チェック
不動産取引時の水災害リスク情報提供等

支援体制を充実する
氾濫水を早く排除する

集水域

雨水浸透ますの整備 チェック

雨水を地面へしみこませ、川に流れ込む時間を遅らせる設備です。各ご家庭にも設置できます。

集水域

ため池等の治水利用 チェック

あらかじめ、ため池の水位を下げておくことで、川に流れ込む水の量を減らすことができます。

治水に チェック 利用しよう!

一人ひとりの取組・理解・協力が重要です（地域のみなさまへ）

気候変動による水災害の激甚化に立ち向かうためには、堤防やダムなどの施設はもちろんのこと、皆さんの身近な施設・設備・土地が持つ防災機能を最大限引き出すことが必要不可欠です。

一人ひとりの取組・理解・協力が、同じ流域の方々を水災害から守ることにつながります。地域のみなさまの参加によって、より実効性のある取り組みになっていきます。私たちと一緒に水災害対策を進めていきましょう。



留萌川流域治水協議会

(順不同)

北海道開発局 留萌開発建設部
北海道 留萌振興局
留萌市役所

2020年8月より協議会を設置して取り組んでいます！

北海道森林管理局 留萌南部森林管理署
旭川地方気象台